



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。  
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

## < オリンピック・ムーブメント事業 >

# JOCオリンピック教室

## 実施報告書

宮城県 蔵王町立遠刈田中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、  
オリンピック自身の様々な経験を通して  
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、  
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、  
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

### 1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、  
チームワーク、フェアプレー、  
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



### 2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、  
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、  
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



## 1コマ目

### 運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

## 2コマ目

### 座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、  
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、  
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、  
今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した  
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

#### ●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：宮嶋 克幸 先生 (スケルトン)【出場オリンピック／平昌2018冬季大会】

■期 日：2022年9月30日(金)

■ク ラ ス：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



●平昌2018冬季大会にスケルトンの日本代表として出場したと自己紹介。オリンピックには、エクセレンス：「卓越した」「少しでも上を目指す」「次の試合に勝つ」「自己ベストを更新する」、フレンドシップ：「友情」「チームで作戦を考える」「チームワーク」、リスペクト：「尊敬」「相手のことを認める」「負けても勝った人を拍手する」のオリンピックバリューと呼ばれる3つの価値があり、運動の時間ではオリンピックバリューを意識しながら、体を動かしてほしいと伝え、準備体操に移る。

○主運動 等



●準備運動では、じゃんけん勝ち抜け(全3回)を実施。各ポイント毎に2人一組でじゃんけんをし、何人がゴールに辿り着けるかを挑戦する。男女対抗でも行った。  
●主運動では、そりりレー(全3回)を実施。2組を作り、1人が体に紐を巻きマットの上に座る。もう1人がその紐を引き、折り返し地点まで走る。折り返し地点で座る人と引く人を交代してスタート地点に戻る。全員がゴールするまでのタイムを競い、途中、作戦タイムを設け、皆で作戦を共有しながら実施。



●運動の時間を振り返り、どの班も1回目よりタイムを更新することができており、皆で一生懸命作戦を考えて取り組んだことや、自分の班だけでなく、1位の班や最後の班にも自然と声援を送っていてオリンピックバリューを体験できていた。座学の時間では、皆が参加している部活動等で目標達成のためには、オリンピックバリューがどのように活かせるか、皆と一緒に考えていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：宮嶋 克幸 先生 (スケルトン)【出場オリンピック／平昌2018冬季大会】

■ **期 日**：2022年9月30日(金)

■ **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



●映像を見ながら、競技の説明をし、スケルトンはうつ伏せになって滑走する。時速100km以上出ているが、実はハンドルもブレーキもなく、体で操作し、ゴール後は手を氷につけてブレーキをかけると紹介。近代オリンピックの創始者であるピエール・ド・クーベルタンは、オリンピックバリューの3つの価値を「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」とし、その3つの価値は、皆の生活でも重要なキーワードになってくるので、座学の時間で学びながら、是非実践してほしいと説明。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：部活に入っている人は大会等で、目標を達成するためには何が必要か、どのようなことを意識すればよいか書き出してみよう。  
それ以外の人は、身近な目標(勉強、習い事等)で目標を達成するためにどのようなことを意識すればよいか書き出してみよう。  
発表：エクセレンス：「ミスをしたら原因を考える」「自分の足りないと思うところを練習する」「できることを増やすために努力を積み重ねる」等  
フレンドシップ：「他校に声をかけて交流する」「仲間と話し教え合う」「休憩時間等で積極的にコミュニケーションを取る」等  
リスペクト：「努力を称える」「ルールを守って活動する」「上手いプレーを褒める」「相手が勝ったら称え合う」等



●座学の時間を振り返り、目標を達成するためにはどうすればよいかを考えて発表してもらったが、絶対できないという内容は意外となかったと思う。オリンピックバリューの3つの価値は、当たり前のことを当たり前にするという大切さでもあるので、今日から少しずつ、感謝の言葉を伝えることや、相手を認めること、尊敬する気持ちを持つこと等を実践しながら、今後の中学校生活をより楽しい時間にしてほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真

・2年1組



■ 記念品贈呈

・2年1組



■ 修了証贈呈

